



みみだより

松江ろう学校 支援部

No. R4-3 2022. 10. 14

風が涼しくなり、季節の移ろいを感じる頃となりました。今回のみみだよりでは、小学部の自立活動と難聴児童生徒の交流会での講演内容をお伝えします。

小学部の自立活動の紹介

小学部では、児童一人一人の自立に向け、それぞれの実態や目標に合わせて学習集団を工夫して自立活動を行っています。今回は、小学部の自立活動の一部を紹介します。

〈合同自立〉～3・4・6年の取組から～

合同のよさをいかして、友達同士で伝え合う活動を中心に取り組んでいます。話の聞き方（相づちや質問の仕方）や伝え方の工夫について話型等を提示しておくことで、学習の中の様々な活動の中で使おうとする姿が見られるようになってきています。生活の中でも使えるようになってほしいと考えています。

○やってみよう

- ・ゲーム（チームで相談して作戦を考えたり協力したりしながら取り組もう）
- ・実験しよう（いろいろ予想してみよう）

○しっかりきいて、あてはまるものを選ぼう

- ・「聞きとりワークシート」「きくきくドリル」

○ことばを広げよう・わかりやすく伝えよう

- ・ピンゴゲーム、フラッシュゲーム



話す人を見る！！

〈各学級・個別での取組の一部〉

ことば

季節の言葉や時事に関することばにはぜひ触れてほしいと願い、それらが取り入れられた新聞の四コマ漫画を使ってオチを考えたり、「今日は何の日クイズ」をしたりしています。雨が降れば「小雨、大雨、霧雨…」冬には「粉雪、牡丹雪、みぞれ…」など、天気を表す表現を確認します。その他オノマトペやなぞかけ、なぞなぞ等を通してことば遊びを楽しみます。

自分のきこえを知る

オーディオグラムが何を表しているか学習し、自分の声や身の回りの音が何デシベルか確認します。聴力測定後は自分でオーディオグラムに値を記入することで、「補聴器を外すと聞こえない音でも、補聴器をつけると聞こえている」ことがよくわかります。聞こえにくい先生は朝どうやって起きているのかインタビューをしたこともありました。

日本語文法指導

主に低学年で取り組みます。名詞や動詞、形容詞などの仲間分けをしたり、品詞カードを助詞でつないで1つの文を作ったりします。動詞、形容詞の活用や比較文、受動文、授受文、使役文など難しい日本語表現も学習していきます。

からだに関すること

学習に集中して取り組めるよう、体幹トレーニングに取り組む学級もあります。教員と片足立ち競争をしたり、くま歩き競争をしたりしています。

応援団の皆さんに支えられて～難聴児童・生徒の交流会より～

難聴の小、中、高校生を対象に“つながる場”“交流の場”として開催している交流会も、今年で4回目を迎えました。小学生は、レクレーションを行い、友だちに自分の気持ちを伝える体験をしながら交流を深めました。中高生は、「先輩の話を聞こう！」と題して、本校の金子尚子寄宿舍指導員の話を楽しみました。難聴の先輩として、体験したことや考えたこと、働くときの工夫などをたくさんのお話がありましたが、その中から抜粋してお伝えします。

○「自分の耳のことを早い段階で知っておきたかった。もっと楽に生きられたかな。」

金子先生は、短大の時に「難聴」について調べ、難聴が聴神経の障がいからくるもので、自分の努力が足りないからではないことに気付きました。それまでは、聞こえにくいのは自分が一生懸命聞かないからなのかな、と思いつつ、頑張っているにもかかわらず聞こえないことにモヤモヤし、自分のことをそのままでは思えなかったそうです。この経験から、「自分の難聴について、調べたり耳鼻科や学校の先生に教えてもらったりして理解すること、そこから、「聞くこと」について、どう工夫をしていくかを考えていくことが大切だよ」と話されました。

○「みんな、明るい！すごい！」大学の寮の先輩や仲間との出会い

同じ短大時代の寮での出会いが、自分自身と向き合うきっかけの1つとなりました。車いすで生活されている先輩や、ろうの先輩、家庭環境が複雑な友だちなど、それぞれがいろいろな悩みを抱えながらも前向きに、明るく生きる姿を見て、自分の生き方について考えるようになりました。出会いを通して視野が広がり、考え方も変わっていったことが伝わりました。

○「自分のきこえやお願いしたいことを詳しく伝えよう」

金子先生は、自分の聞こえやお願いしたいこと(合理的配慮)について、書面にして詳しく伝えていきます。口頭で伝えるだけよりも配慮をしてもらいやすいそうです。さらに、自分でもさまざまな工夫をしています。例えば、情報保障は、急をお願いしても相手が困ることがあるので、スケジュールを早めに把握して、事前をお願いをしています。また、相手の話を復唱して確認をするなど、お互いに伝わったことがわかるように「リアクション」を大切にしています。

○「一人じゃない、仲間がいる。たくさんの応援団がいる！」

最後に、「皆さんは一人じゃない、たくさんの応援団がいます。相談できる人、愚痴れる人、人生の先輩、家族などの力をかりていこう！」と話しました。金子先生自身も、理解者である友だちに支えられているそうです。難聴の友だちとお互いの悩みを話して一人じゃないと思えたり、聞こえる友だちから自分が気付かないことを教えてもらったりして、難聴の友だちも聞こえる友だちも大切にしています。金子先生自身が、みなさんの応援団として、「いつも応援しているよ！お話ししましょう、待っているよ！」と伝えてくれました。

参加者から「学生のときに難聴のことで悩みましたか？自分は進路のことで不安です。」という質問がありました。以下が金子先生の回答です。

「高校進学の際に、将来の夢を諦めました。でも、やっぱり諦めきれなくて、もう一度挑戦しました。自分の可能性を知るためにも、ぜひチャレンジして下さい。夢がかなうことも、かなわないこともあります。挑戦することで、できるようになることやわかることがあります。助けてくれる人もいますので大丈夫！」



頑張っている自分と、支えてくれている友だちや家族に拍手をして会を終わりました。金子先生の話をもっと聞きたくなった方は、寄宿舍を訪ねてくださいね。

